

わがまち雑司が谷

第22号

発行所 わがまち雑司が谷
豊島区雑司が谷1-24-14
☎03-3988-7733

発行人 前島 郁子
編集人 田中 邦男
発行日 平成8年1月5日
印刷所 新光印刷株式会社



1937年頃の斉藤百合

特集



“視覚障害者に光を！”

“盲目の斉藤百合の生涯” 映画化を語る

座談会

司会 斉藤百合さんは、雑司が谷
亀原で生活をされ、視覚障害者の
自立のために立派な仕事をされた
のですが意外に知られていないの
です。大変残念に思っています。
もっと多くの人に知ってもらい
たいと思ひ座談会を企画致しまし
た。始めに美和さんよりお母様
についてお話をしてください。

百合はやさしい母親だった

斉藤 私は末子だったので、かわ
いがられて育てられました。困っ
た事があって母に相談すると、す
ぐ解決してくれました。やさしい
母親でした。

百合は自己主張が強く、男女
平等の考えをしっかりと持っていた

百合が幼少の頃、父親はこんな
目のみえない子を不憫に思い、ひ
とおもいに殺して自分も死のうと
井戸端に出たがその時、「生きて
い。生きたい。」と泣き叫んだと
聞いています。

それから、あんまを習わせよう
と豊橋へ預けられるのですが、あ
んまは性に合わなかったらしく一
人で戻って来てしまったそうです。
又、盲女子は結婚してはいけない
と言われた時も、なぜいけない

斉藤武弥・百合の三女。劇団
「民芸」の女優。小学校三年
まで雑司が谷に居住。



斉藤 美和氏

のか、男女は平等ではないのかと
言って、東京盲学校の後輩であつ
た武弥と結婚しました。二人は雑
司が谷亀原に居を構え生活をはじ
めました。ある夕方、銭湯に行く
途中で、「オイあんまさん。大き
な腹をしていったい誰の子を孕ん
だんだね。」と嘲られ屈辱に打ち
のめされたのでした。

夫、武弥(弱視)は、百合の精
神的支えとなり夫婦の信頼は
強固だった

屈辱感に打ちのめされている百
合をみて武弥は、「われわれが率
先して普通の人になれないよう勉
強して盲人の地位向上をはかろう。」
と励ましたのです。武弥は、子ど
も達を守りながら、裏側で百合を
支え指針を与えつづけていたの
です。



武弥・百合夫妻

キリスト教に対する信仰

武弥・百合夫妻は私費を投じて
点字図書を出版したり、「陽光会
ホーム」をつくって盲女子の生活
訓練の場とするなど、次々に活動
しますが、困難にぶつかる度に神
に向かって問いかけながら、エネ
ルギーを受け、次の仕事に立ち向
かっていきました。



のぶ 昶子氏
渋谷

フリーの短編映画の演出家。
今井正・新藤兼人などのスプ
ットとして活躍。

司会 こんな立派な仕事をされた
斉藤百合さんの生涯について、こ
の度映画化されるそうですが、ど
のような映画になるのでしょうか。

今までにない形の映画にしたい

渋谷 三女の美和さんが母親の百
合さん役を演じると共に、子ども
時代の自分も演じることになりま
す。そして現在の立場で心情を語
ることになります。

美和 私は母に扮するのではなく
私の内に最愛の母がいる……。そ
の内在している母の部分演じて
みたいと思っています。

「ママ。春ってこれ？」
「そうよ。春ってこれよ。」

この会話にこめられた母子のイ
メージを大切に思っています。
フランスの戯曲「木曜日の子
ち」のような手法でできたらと、
ふと思いました。きっとすばらし
い映画になるとおもいます。



小池 陸子氏

主婦。雑司が谷在住豊島区女
性史編纂員「風の交叉点3」
で斉藤百合を執筆。

小池 「木曜日の女たち」は原さ
んと一見いただきました。

あの手法は、メイキャップも衣装
も変えずに、少女から老年期にさ
しかかる女性を演じられたのです
ね。原さんと一緒に見に行き、大
変感動いたしました。とても良か
ったです。あの時、初めて美和さ
んを楽屋に訪ねました。

渋谷 四月十三日は南池袋の法明
寺境内の桜が一番きれいな日でし
た。どうしても桜のあるシーンを
撮影しておきたかったのでカメラ
を回しました。ちょうど快晴で花



→ 法明寺の桜



← 盲人の撮影風景



原 祐子氏

主婦。雑司が谷在住豊島区女
性史編纂員「風の交叉点3」
で斉藤百合を執筆。

吹雪が舞い素敵なシーンを撮るこ
とができました。

原 あの日は法明寺の境内を横切って行く行人の交通整理も手伝いました。

渋谷 桜のシーンを撮影したフィルム見た時一つの形式が決まったと思いました。

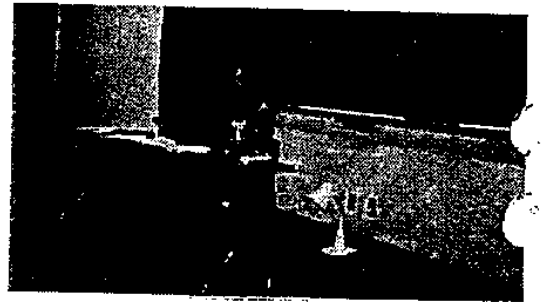
美和さんは、四十三歳の母親役と四歳の子供の役を見事に演じていました。ここで方法上の確信を得ることができました。

百合の疎開先、静岡県三ヶ日町で「ふるさと講座」で講演した美和さんそれから三ヶ日町での講演は大変意義あるものだったとおもいます。あの雰囲気を見て、映画のヒントをもらったと思いました。

十月から撮影開始。シナリオは演出家と美和さんが密接に打合せしながら進めていく

司会 お話を聞いてみると、映画ができ上がるのが楽しみになってきましたが、この映画をつくる動機は何だったのでしょうか。
美和 平成六年の九月に雑司が谷旧宣教師館主催の公開講座がありました。その時に母百合の話をしたのです。

大勢の方々が熱心に聞いて下さったのですが、何と言ったらよいのでしょうか、話す立場と聴く立



豊島区立旧宣教師館主催の講演会で齊藤美和氏

場が一 つにな ったと 言いま すか、 濃い密 度のよ うな手 応えを 感じま した。 雑司

が谷で生まれ雑司が谷で育った私 がここで母親をよみがえらせたい !!と強い衝動があつて映画製作を 思いついたのです。雑司が谷にそ んな人がいたの、知らなかったと 言われたので残念に思っていました。 雑司

司会 映画は自主映画ですから。 製作費が大変だと思えますがどの ように捻出されるのですか。

渋谷 映画は一時間ほどの短編な のですが、それでも相当の費用が かかります。全く無一文からの出 発ですから大変です。

司会 映画製作委員会が結成され たそうですが……。

秋山ちえ子さんを代表者として 製作委員会を発足!!

渋谷 評論家の秋山ちえ子さんが

率先して代表者になっておられま した。以下十四名の委員が一致協力 して製作日の募金活動をするこ とになりました。



製作委員会 (左 本間氏、右 秋山氏)

豊島区・文化庁も後援をしてく れることになっていきます。皆様方 のご協力をお願いいたします。



百合を演ずる齊藤美和氏

東京盲学校時代の百合の日記には 『人は盲人を見ると、親の顔が見 えず悲しいだろう。美しい景色が 見られずかわいそうだとさうが、 顔は見えなくとも、声と肌のふれ 合いで心は通う。 美しい景色は、文学者の筆が見る 以上に美しく伝えてくれる。 けれど、私自身の顔をどうしたら

知ることができのらう。 自分自身の顔が見たい……。 私はみにくいのだろうか。それと も……。

輝くような若さと、美しさをどう すれば、私の顔にあらわせるのだ ろう。』と記されている。

風の交叉点——豊島に生きた女性 「齊藤百合 春の陽を求めて」より